



最近話題の認知症について

高齢化の進展とともに、認知症患者数も増加傾向で、65歳以上の認知症患者数は2020年の約602万人が、2025年には5.4人に1人程度、約675万人(有病率18.5%)になると予測されています。

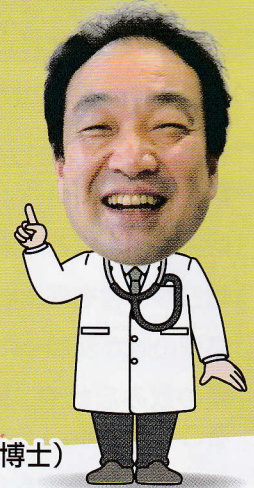
認知症については、最近大きな話題が2つあります。一つは、認知症に対する画期的な薬ができたこと、もう一つは、新型コロナウイルス感染症と認知症の関係がわかってきたことです。

まず、薬に関しては、アルツハイマー型認知症の原因物質である、アミロイドβタンパクに対する薬剤が開発されたことです。軽度の認知機能障害であれば、認知症の進行を止めるだけでなく認知機能の改善効果が認められますので、治療のためには、できるだけ早期に認知症を見つけることが大事になります。

そして、新型コロナウイルス感染症の後に認知機能障害が増悪することがわかりました。そのメカニズムの一つが、嗅覚神経に感染したコロナウイルスが、神経を通して脳の海馬(記憶の中核)周辺に広がり、認知機能の低下をきたすというものです。これも、コロナ感染後、できるだけ早期に認知機能障害を見つけ、対応することが大事になってきます。

つまり、いずれの場合においても、適切な治療と増悪防止のためには、早期の認知症診断が重要となります。認知症について、その早期発見と治療や増悪因子などについて学んでいただけたらと考えます。

ささえ愛隊 隊長
佐藤圭創 (医学博士)



どんだけ健康会の 運動相談コーナー報告



令和5年10月22日に延岡市川中コミュニティセンターにて、『どんだけ元気?あたまとからだ』をテーマに「どんだけ健康会」を開催しました。その中で延岡市の理学療法士で結成した「ほっとステーションenリハ」による運動相談コーナーを実施しました。



今回は5名の理学療法士が市民の皆様の身体や運動のお悩みについてお応えしました。相談件数は約50名(50歳代から80歳代まで)でした。最も多かったのが、膝や腰等の関節痛に関すること。次いでロコモ度テストで「立ち上がりができなかった」など筋力低下に関することでした。他に日頃の運動量や体力に関する質問などが聞かれました。ストレッチやスクワットなど、ご自宅のできる運動などを個別に対応させていただきました。

想定していたよりも多くの相談が寄せられ、市民の皆様の運動への関心の高さが伺える機会となりました。今後も皆様の健康をサポートしてまいります。次回も楽しみにお待ちしております。

理学療法士 永山京子 隊員